

慢性腎臓病の治療薬には、様々な薬が用いられます。  
中には服用しにくい薬もあり、工夫が必要となります。  
今回はその中で「尿毒症治療薬クレメジン」についてお話しします。

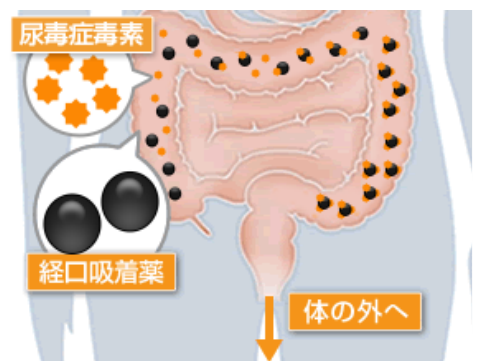


### 1. 尿毒症の症状とは？

腎臓の働きが悪くなると、もともと体の外へ排出されるべき老廃物や毒素が血液中に蓄積されます。その結果、血液が汚れて、貧血やむくみ、体の疲れ、頭痛、食欲不振などの様々な症状が現れます。このような症状を尿毒症症状と呼び、尿毒症を引き起こす物質を総称して尿毒症物質と呼びます。食事制限などにより、ある程度の尿毒症の改善は望めますが、腎機能の悪化に伴い、尿毒症物質の蓄積は進行します。

### 2. クレメジンの効果

クレメジンは、これらの尿毒症物質を消化管の中で吸着し、それを糞便中に出すことで、体の中に尿毒症物質をためないようにする薬です。  
クレメジンは、他の薬と違い、飲んだ後血液中に入ることなく体の外へ移出されるため、便秘や腹部膨満感以外には副作用はほとんどありません。



クレメジンには、カプセル、細粒、速崩錠の3種類があり、通常1日3回服用します。

カプセル 200mg  
1回10カプセル



細粒 分包2g  
1回1包



速崩錠 500mg  
1回1包4錠



### 3. クレメジンはなぜ腎不全の進行を遅らせることができるのか？

腎不全の進行には、体の中にたまった尿毒症物質が関与するといわれています。クレメジンは拡大すると、目に見えないほどの無数の細孔があるため、尿毒症物質が吸着する面が広がるよう設計された薬です。そのため、クレメジン1gの表面積は1,590㎡で1日量(6g)だとサッカー場一面以上に匹敵し、効率よく尿毒症物質を体の外に排出することで、腎機能の悪化を遅らせています。

#### 4. クレメジンは、他の薬と同時にのんではいけない理由

他の薬物と同時に服用すると、他剤を吸着し、効果が低下するため、クレメジンは30分から1時間以上ずらして服用する必要があります。実際には食後に飲む薬が多いため、クレメジン食間（食後2～3時間）に服用していただくことが多いです。

#### 5. クレメジンは量が多くてのみにくいです。上手にのむには？

カプセルタイプは1回10カプセルと服用量が多いですが、10カプセル分が1袋に入った細粒タイプがあります。細粒は、フクロオブラートや嚥下補助ゼリーを使って飲む方法もあります。また少量の水を入れたコップにクレメジンを入れると、クレメジンは底の方に沈みます。それをストローで吸うと、水も少なくても上手に飲めます。

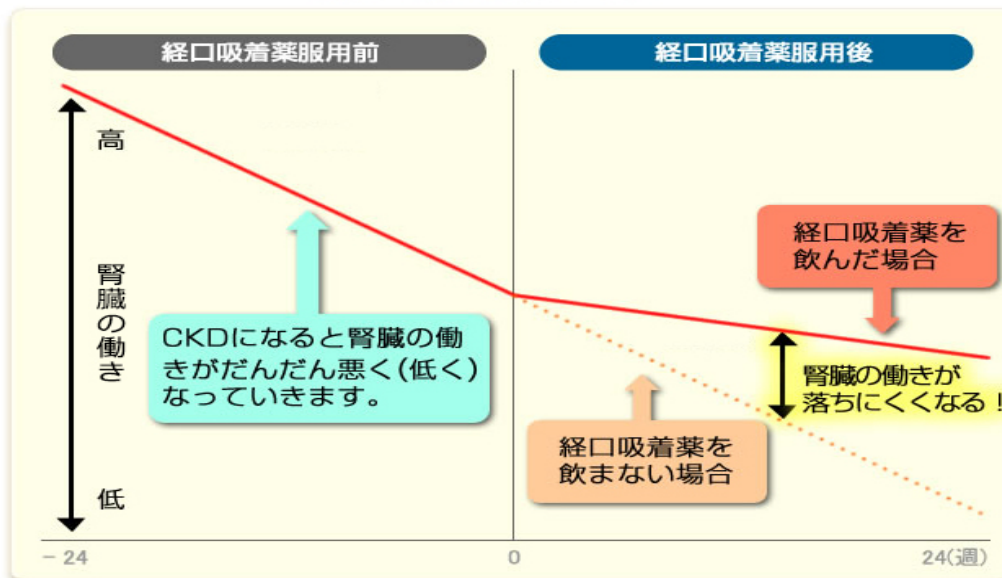
速崩錠は服薬ボリュームを大きくすることなく、また、少量の水で速やかに崩壊しながらも口腔内での拡散を抑えることで飲みやすくした剤型です。ただし速崩錠は、OD錠（口腔内崩壊錠）ではありませんので唾液だけでのみこむことはできません。少量の水で崩壊させながら飲み込むというイメージです。

#### 6. ジェネリック医薬品に変更してもよいですか？

これまで、クレメジンと別のジェネリック医薬品と比較した試験で、ジェネリック医薬品の効果が劣るといふ報告があります。医師と十分にご相談の上、使用することをお勧めします。

慢性腎臓病を進行させないためにクレメジンの効果を十分理解していただき、ご自分にあった方法で服用できるよう、お困りのことがございましたら医師・薬剤師へご相談ください。

### ★経口吸着薬を飲むと…



(イメージ図)